

★ 釜ヶ崎夜間学校 仮称 23回

3/5 今夜7時より「希望の家」階にて

テーマ「釜ヶ崎の歴史(その2)」

消えたと言葉

「新しく生まれてきた言葉」

一九七〇年の万博が終わった後の十日一日に愛蔵総合センターがオープンした。

それまで南海線の西側道路上にあった「寄り場」はセンターの一階に移され、寄り場になった。労働者が自由に集まると言ういん意気が強かった。寄り場は集められ管理される側面が強くなった。手配師、人夫出しは奥

仮称「釜ヶ崎夜間学校」とは

我々が釜ヶ崎で、あるいは日雇労働者として生活している中で、誰でもがいつかは必ずぶつかる、一人の問題であると同時に皆の問題でもある仕事や病気の問題等を皆で解決していく為に

質的に合法化された。

それはかりではなく今日管理は人夫出しの賃金協定という形でもあらわれている。

センターができるると失業保険(今は雇用保険)が適用されるようになり、「白手帳」「認定」と言う言葉が生まれた。

完全に消えたわけではないが、あま

先生と生徒の関係ではなく、皆が生徒で先生でもあると言う対等な関係の中で、互いの知識と経験を通して考え、学び合う自由な場です。

是非多くの仲間が参加して下さい。又、運営にも積極的に参加して下さい。

り聞かなくなったものに、本船と言う言葉がある。これはコンテナによる合理化などで、ほとんどは事がない。な、たからだ。

変わらぬ言葉と言えは、先ず「釜ヶ崎」があげられる。そして、「アニコ」これには、「空屋」と言う当て字もある。「労務者」は新聞などでは出たり引、こんだりする奇妙な言葉だ。

「タコ部屋」はほとんど姿を消し、「半タコ」、「暴力飯場」になったかと。思っていたら、と、こい中又組のようになりバリの「タコ部屋」が生きておりまたまた引退してもらおう訳にはいかないうた。

このように、我々が日雇使っている言葉の中に釜ヶ崎の移り変わり、我々の生活状態がうつし出されている。

今回は、これ以外にも我々が日雇使っている言葉をとらえかえすなかで、釜ヶ崎の歴史、そして我々の生活状態の移り変わりをいりかえってみたいと思います。

(仮称)釜ヶ崎 夜間学校ニュース

第22回 報告

テーマ「悪質飯場と労働者の生命」

2.26

生命と権利を守らねば

その意識を高めよう

再びおそろい寒波

やや暖い日が続いてきたのに、またも寒い北風がふき氷点下に冷えました。荻の茶屋二丁目の通りで明け方行状病死者が発見されています。先週はいくつかの事件が新聞をにぎわしました。一番目は、南港で発見された死体は、実に釜ヶ崎で求人していた悪質飯場でのリンチによる殺人であることがわかりました。これは米山の一角で、また多くの悪質・暴力飯場がはびこっているのです。次は、死者四人、重軽傷者四十三人を出した千成ホテルの火事の経営者に一人命尊重の精神がないと禁固刑の求刑が出ました。また五年前の越冬斗争の吹き出しのさい中、警官が労働者をなぐり目をケガさ

せた事件で、警察は何もしてないといらぬが、裁判所は明らかに警官は暴力をふるったとして損害賠償を大阪府に命じた。警察はわしらの味方ではない、と言うことが証明されたのです。

事件の悪さと

労働強化

「なんでこんなやろ。一人ではどうにもできん」と先々回話に出た柳井建設の飯場火災も含め仕事の条件の悪さと生命の尊厳さについて学びました。「上のさんが横着すると下もそれにならって無茶を押しつける。そして何か起っても上は知らんふりしよるし」

法律では、ちゃんと釜の労働者も権利を保障されています。労働基準法には「強制労働は禁

止され、取業安定法では「労働者供給事業（手配）が禁止されている。これらをきっちり守れば人夫出し手配師はいないはず。ザルはザルでも、労働者の権利意識を高めることが大切です。

今後の予定

- 3月12日(休) 夜間学校の今後
- 3月19日(休) 労働
- 3月26日(休) 病 気

「みんながつくるみんなのひろば」
「(仮称)釜ヶ崎夜間学校」
運営委員会準備会

西成区救え茶屋2-18-18

釜ヶ崎・喜望の家内
電話(06)六四七-三九四六
(毎週木曜日夜7時~10時の間)

